

国別開発協力第一課での勤務を通して

平成30年1月
外交実務研修員 齊藤 遼
(北海道から派遣)

1 はじめに

平成28年4月に北海道から派遣され、国際協力局国別開発協力第一課で勤務をしている齊藤遼と申します。私が所属している国別開発協力第一課は、東南アジア、東アジア及び大洋州地域における ODA(政府開発援助)を担当しております。私は着任してからの10か月間、ベトナムとインドネシアへの無償資金協力及び技術協力を携わり、現在は中国とモンゴルへのODA全般、メコン地域への支援及び総務業務を担当しております。

2 外務省の仕事とは

外務省への出向の打診を受けた時、正直、私は外務省がどのような仕事をしているのかイメージすることができませんでした。それは外交という言葉が、外務大臣が他国の要人と握手する映像や、国際会議で総理大臣が演説する映像を想起させ、どこかテレビの向こう側の世界で起こっていることとして、自分の中で認識されてきていたからでした。

1年10か月経った今でも確としたものを説明できるわけではありませんが、外務省の業務は安全保障から文化交流まであらゆる分野にわたり、国際会議から国際協力の現場まで様々なフィールドを舞台に繰り広げられています。全てが私たちの生活と直結していると実感できるわけではありませんが、日本という国を国際社会の中で体現することで、私たちが国際的に活動しやすい土壌をつくっています。

例えば私が担当しているODAについても、被援助国の経済・社会状況を改善するだけでなく、日本の高い技術や誠実な仕事ぶりを被援助国の人々に知ってもらうことで、日本に対する信頼度が増し、その国で日本人や日系企業が活動する機会を創出することにも貢献しています。



日本の無償資金協力にて、モンゴル・ウランバートル市に建設された高架橋（JICA HP より）市民から、モンゴルで日本を意味する「太陽」の名を冠せられ太陽橋と呼ばれている。モンゴルは親日的な国だが、その背景の一つとして、日本がモンゴルに対する最大の支援国として民主化・市場経済化を一貫して支援してきた経緯がある。

3 ODAとは

私が担当しているODA。おそらく学校の社会の授業で皆さんも耳にしたことはあるかと思います。ODAとは、「Official Development Assistance(政府開発援助)」の略称です。主に開発途上国に対して保健や教育などの関連分野で必要な資金を贈与する「無償資金協力」と、途上国が自立できるよう日本の技術を伝える「技術協力」の他、将来、被援助国が返済することを前提とする「有償資金協力(円借款)」があります。

日本がODAを行っている理由は、豊かな国が貧しい国に手を差し伸べるためだけではありません。資源や食料を海外に依存している日本にとって、ODAは最も重要な外交手段の1つであり、国民の生活を守り、より良い国際環境を構築するという、日本自身の利益にかなうものでもあります。またODAを通して、日本の優れたインフラや製品・技術を海外に普及させることで、新興国や途上国と日本がともに成長する機会を創出し、国際社会において、日本の存在感を向上させることにもつながっています。経済のグローバル化に伴い、最近のODAをめぐる国際的な潮流も変化してきています。①貧困削減に加えて経済成長も、②ドナーと被援助国という垂直的な関係をもたらしていた援助から、先進国と途上国の双方に利益となる開発協力のあり方へ、③ODAに加え民間投資も、④国際益重視から、国際益と国益の両立、または国益重視へと、重視されるポイントも変わってきており、それに伴い日本における国際協力のあり方も、次第に変化を遂げようとしています。



マンガで知る、開発協力！
ぜひご一読を！！

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaikou/oda/ebook/odagiri/html5.html>
#page=1

4 終わりに

国別開発協力第一課での勤務は、着任時から多忙な日が続きましたが、課内の皆様に温かく丁寧にご指導をいただき、ご迷惑をおかけしながらも、日々充実した勤務につけております。また、ODAは、相手国との二国間関係で行うことが多いですが、メコン地域全体の活性化という視点からも業務に携わらせていただき、昨年8月には、フィリピンで開催された日ASEAN外相関連会議の一つである、日メコン外相会談の現場へ実際に赴くなど、大変貴重な経験を積むことができました。外務省本省での勤務も残り2か月となりましたが、この貴重な時間を大切に、引き続き精進したいと思います。



日メコン外相会談の各国担当者

(左から二人目が筆者)

カンボジアの政府顧問が写真をとりながら、「You are future!」と何度も言っていたのが、印象的だった。

(了)